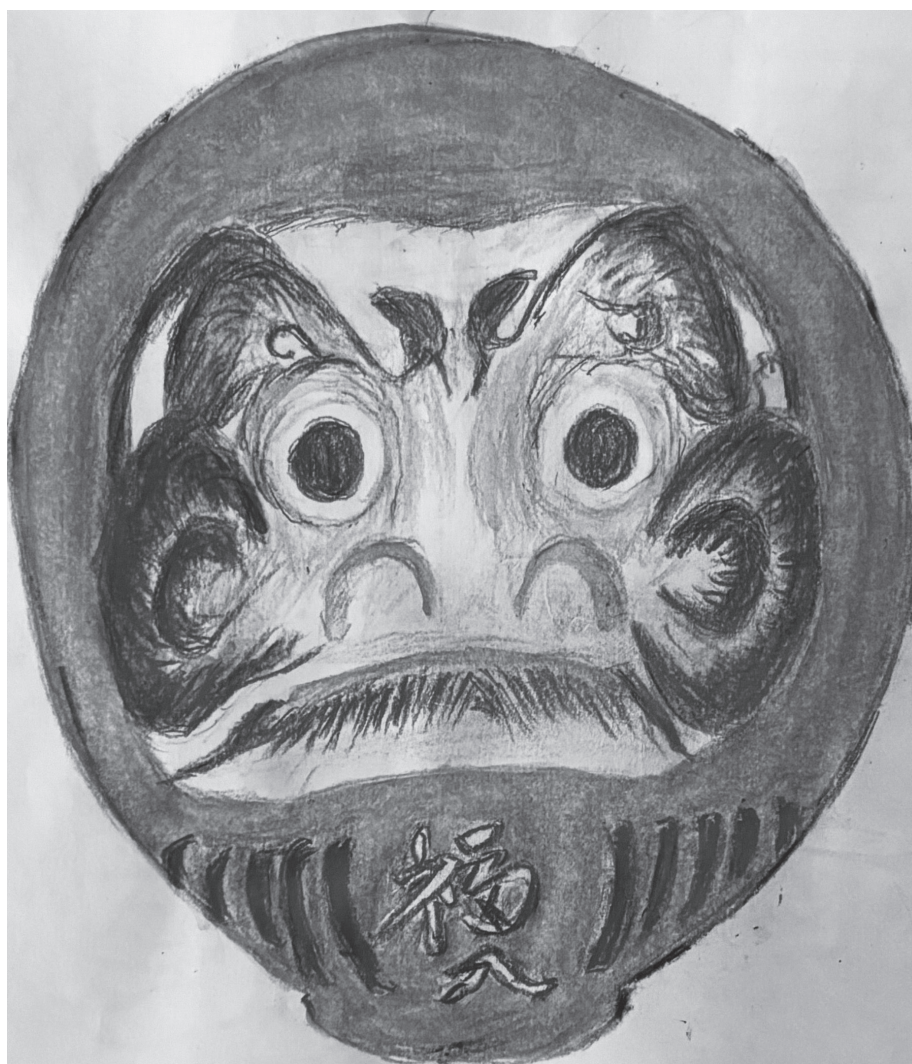




Contents

- 特集記事 2~3
- 2024年新人症例発表会優秀新人賞 4
- 2024年優秀演題賞 5
- activity report 6
- 議事録 7~10
- エッセイ 11~12
- 施設紹介 13
- 編集後記 14

特集1

第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in群馬

訪問看護ステーションまつかぜ 小此木 論

第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in群馬は、2025年6月7日(土)・8日(日)の2日間、群馬県高崎市のGメッセ群馬を会場として開催されます。大会のテーマは「地域創生」～訪問リハビリテーションの立場から誰もが暮らしやすい街を～です。2025年は地域包括ケアシステムの完成年であり、さらに深化する必要があります。訪問リハビリテーションの対象者の生活を考えると、在宅での充実した生活だけでなく、「地域へ出ていく」「地域と繋がる」ことが重要です。作業療法士として、地域に貢献する活動が必要です。本大会では、訪問リハビリテーションの視点から地域を創造し、地域へ貢献するためのヒントとなる教育講座、一般演題、特別講演、シンポジウムなどが企画されています。訪問リハビリテーション従事者だけでなく、多くの方々の参加を通じて情報を共有し、議論を重ねることで、訪問リハビリテーションおよび作業療法の発展につながることを期待しています。

第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in群馬の内容

- リハビリテーション専門職として地域づくりや地域貢献をどうするか？の講演
- 訪問・在宅リハビリテーションの制度に関する講演及びシンポジウム
- 能登半島の災害支援をして災害支援セミナーも開催
- お金に関する研究支援、また転倒予防学会との交流セミナーなども用意

第26回 日本訪問リハビリテーション協会 学術大会 in 群馬 2025

地域創生

訪問リハビリテーションの立場から
誰もが暮らしやすい街を

作者 星野富弘

会期 2025年 **6月7日(土)・8日(日)**

会場 **Gメッセ群馬** (群馬県高崎市岩押町12番24号)

大会長 || 新谷 和文 (医療法人協会介護老人保健施設うららく)

実行委員長 || 田村 明信 (孫の手・ぐんま)

副実行委員長 || 三浦 祐司 (成島クリニック)

大会事務局長 || 小此木 論 (訪問看護ステーションまつかぜ)

<https://g-regi.jp/houmongunma25/>

主催 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会

共催 群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会

©群馬県 ぐんまちゃん 00912-01

流題募集期間
2024年11月25日(月)～2025年1月21日(火)

参加募集期間
2025年2月21日(金)～2025年5月6日(火)

特集2

地域交流サークル「つむぎの広場」の学生活動

群馬医療福祉大学作業療法専攻 3年 村松 稔太

はじめまして。群馬医療福祉大学作業療法専攻3年生の村松稔太と申します。私は地域住民との交流や街中の活性化を目的に様々な活動を行う「つむぎの広場」というサークルの代表を務めています。今回は「つむぎの広場」の活動について、紹介させていただきます。このサークルは現在県内で作業療法士として活躍されている先輩が立ち上げ、当時は街中の高齢者向けサロンに参加したり、商店街の清掃やお祭りのお手伝いをしたりと様々な活動をしていたそうです。しかし、コロナ過をきっかけに活動が縮小し、私が入学した当初は直接地域の場に出て行う活動はあまり行われていませんでした。

サークル顧問の山口先生からの声掛けや「認定NPO法人じゃんけんぽん」さんとのご縁をきっかけに、活動を復活、拡大していきたいという思いが生まれ活動を再開しました。今では月に1回、じゃんけんぽん大利根前橋「近隣大家族」でのイベント、街中で行われるイベントへの出店やお手伝い、前橋市中部地区における交流活動を行っています。「近隣大家族」では体操やレクリエーション、創作活動などを学生が考案し実施しています。街中のイベントは「前橋フェスタ」や作業療法士が代表を務める「NPO法人きかね」さんが主催する「松ぼっくりリバトルロワイヤル」などのイベントに参加させていただきました。



前橋市中部地区社会福祉協議会さんとは、学生と周辺自治会の役員さんや民生委員さん達との情報交換会を実施しました。情報交換会を通して、街中の住人さん達が困っていることや学生にしてほしいことなど様々な思いを教えてくださいました。それらをふまえ、2025年3月29日に「つむぎフェス」という地域住民や学生を含めた多世代交流を目的としたイベントを中部地区社会福祉協議会さんと共催することになりました。学生だけではなく前橋市社会福祉協議会の方や地域包括支援センターの方々、街中でお店を経営している方々と協力して作り上げました。



今後も「つむぎの広場」では地域住民との交流や街中の活性化に少しでも寄与できるような活動をしていきたいと考えています。また、この活動が同じような思いを持った学生や、まだこういった活動をしていない学生にも広がっていくように活動をしていきたいです。これらの活動を通して、地域で生活することの視点や多世代の方々の考え方など、多くのことを学ぶことができました。



今後は、先輩が立ち上げてくれたこの活動を後輩たちに継承していくとともに、卒業後は地域に貢献できる作業療法士になれるように努力しつつ、残りの1年間の大学生活を楽しみたいと思います

2024年群馬県作業療法士会新人症例発表会にて、 優秀演題賞が選出されました。

新人症例発表会は、日頃抱えている疑問や問題点、成果経験などの意見交換の場となる事を期待するとともに、先輩や他施設の作業療法士とのディスカッションや助言から、解決の糸口を見つけるきっかけとなる事を目的としています。新人症例発表会優秀演題賞は、若手の診療業務や研究への意欲向上、学会発表の促進などを目的として、新人症例発表会の演題から特に優秀な演題の演者に授与されます。



2024年新人症例発表会 優秀新人賞受賞者

◎脳梗塞を呈した症例に対し、ADOCを用いてトイレ動作に焦点を当てて介入した事例

公立藤岡総合病院 小林 明日香

◎外界の気づきを促す中で注目が見られ、人や物に働きかける事が増えた症例

社会福祉法人二之沢愛育会 群馬整肢療護園 木下 妃奈

◎MPDLPの合意目標の再確認が離床時間の延伸、意欲的なリハビリテーションの参加につながった事例

大誠会内田病院 山洞 萌々香

◎家族に料理を振舞いたい～左手を参加させた料理動作の獲得を目指した症例～

公益社団法人群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院 小暮 友理夏

◎気管カニューレ留置・四肢麻痺を呈した症例に対する趣味活動の再獲得に向けたアプローチ

～目標の共有方法を工夫し、早期から段階的な上肢機能訓練を導入した効果～

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 菰原 太陽

◎MTDLPの生活行為工程分析が、諦めていた家事動作の役割獲得に有効だった症例

独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院 金澤 由季菜

代表して、金澤さん、小林さんよりコメントを頂きましたので紹介させていただきます。

地域医療機能推進機構 群馬中央病院 リハビリテーション部 作業療法士 金澤 由季菜

この度は、新人優秀演題賞をいただき、大変光栄に思っております。また、発表の機会を設けてくださった新人症例発表会の関係者の皆様、並びにお忙しい中ご指導くださった先輩方に感謝申し上げます。

今回の発表では、MTDLPを活用したことで、退院後の役割を再獲得することができた症例を報告しました。MTDLPが、他職種やご家族との円滑な情報共有や連携に効果的であることを改めて実感いたしました。今後も臨床に活かしていきたいと考えております。

今回の受賞を励みに、今後も自己研鑽に努めてまいります。この度はありがとうございました。

多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院 リハビリ室 作業療法士 小林 明日香

この賞を取れたのも、日頃指導してくださっている職場の先輩方をはじめ、対象者やそのご家族に感謝の気持ちでいっぱいです。私自身は家族の手術を通してリハビリの職種を知り、対象者の方に寄り添える作業療法士になりたいと思いこの職種を目指すことにしました。現在では、知識や技術が不足していますが、様々な視点から考えられるようになる事や技術の向上を目指して日々頑張っています。今回の新人症例発表会を通してまた課題も見つかり、今後に活かしていきたいと思っています。これからの日々の業務だけではなく、自己研鑽等も取り組みながら、目の前の対象者にしっかりと向き合っていきたいと思いました。

尚、諸般の事情で掲載が遅れましたことをお詫びいたします。

群馬県作業療法士会 福利厚生部 小田俊一

2024年群馬県作業療法学会において、優秀演題賞として、群馬パース大学 石代敏拓氏が選出され表彰されました。

優秀演題賞は、群馬県作業療法学会の学術的意義を高め、群馬県作業療法士会員の臨床業務や研究への意欲の向上、促進することを目的として本学会の口述演題から、特に優秀な演題の筆頭演者に授与されます。今年度は、県学会での演題発表は荒天のため中止となってしまったため、特例により書面による1次審査、2次審査を経て優秀演題賞を決定させて頂きました。

石代先生から受賞にあたってコメントを頂きましたのでご紹介します。

群馬県作業療法士会員の皆様、はじめまして。群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科の石代敏拓と申します。

まずは石森卓矢学会長ならびに実行委員の皆様、お忙しい中学会の準備を進めていただき、心より感謝申し上げます。

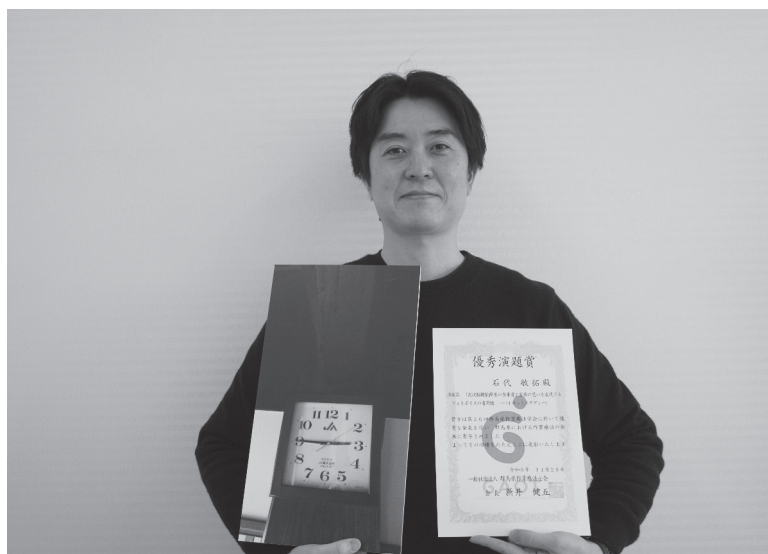
さて、この度、第26回群馬県作業療法学会にて演題「高次脳機能障害の当事者と家族の思いを表現するフォトボイスの有用性—パイロットスタディー—」が優秀演題賞に選ばれましたことをお知らせ申し上げます。学会関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

本研究は、高次脳機能障害の当事者やご家族とともに進めている「フォトボイス」という参加型アクションリサーチの取り組みです。フォトボイスとは、写真（フォト）と言葉（ボイス）を組み合わせ、言葉だけでは伝えきれない思いや経験を伝える手法です。

たとえば、ある当事者のお母さんが、自宅の掛け時計の写真を撮影してきてくれました。

彼女は『親子の時間感覚の違い』と題したフォトボイスと共に、こんなエピソードを紹介してくれました。「息子から、通院の送迎や買い物を手伝ってほしいと急に電話がかかってくる。急いで駆けつけると、結局1時間待たされることもよくある。息子には息子のペースがある。こういう誰にでもありそうなのが、周りの人から後遺症の影響だと理解されにくい——」。このフォトボイスを通じた話し合いは、「高次脳機能障害が日常生活の中でどのようにあらわれるのか」、「当事者と家族はどんな思いで後遺症に向き合っているのか」の一端を考えさせてくれました。

2025年でプロジェクトは3年目を迎えます。これまでに、私たちは5回のミニ展示会を開催し、3回のセミナーと2回の学会発表を通してプロジェクトで得た学びを発信してきました。そして現在は、プロジェクトの学びをフォトブックにまとめている最中です。高次脳機能障害に関心のある方、フォトボイスや参加型アクションリサーチに関心のある方、一緒にこの取り組みを広げていきませんか？あなたの視点が、新たな学びを生み出すかもしれません。ぜひご連絡ください。ishidai@paz.ac.jp（石代敏拓）



activity report

第1回 地域作業療法推進部 × 広報部会議

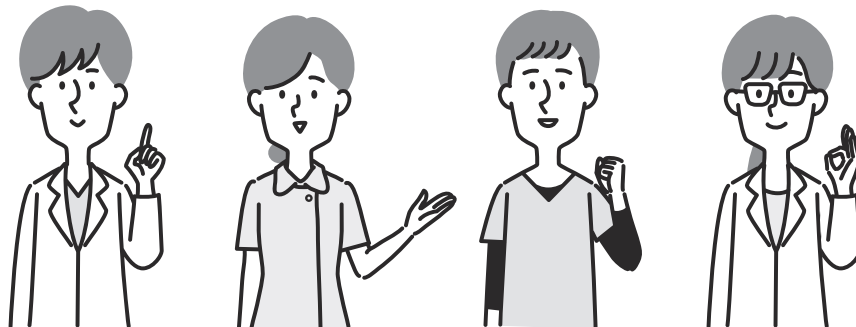


地域作業療法推進部と広報部で初の合同会議を行いました。

お互いの目的やこれまでの活動内容等を振り返りながら今後の活動に向けた会議を行いました。

今後の動向に乞うご期待!!

広報部 ニュース編集長
介護老人保健施設うらく 大脇宗雅



群馬県作業療法士会 2024年度 第5回理事会 議事録

日 時：2025年1月29日(水) 19:00～21:00

会 場：Zoomによるオンライン開催

参加者：新井、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、高橋、都丸、長谷川、山浦、山口、吉岡、李 (50音)

【各部報告・審議事項】

1. 新井会長

- ①2025年1月8日、群馬県歯科医師会主催の新年祝賀会に出席し、県健康福祉部長様や医務課長様、他団体の会長様との賀詞交換及び今後の連携等についての意見交換を行った。
- ②2024年12月12日、高崎市内学童保育に対する当会からの支援の要望が寄せられ、社会福祉法人みどの福祉会地域貢献事業部代表丸茂様、高崎市福祉部子育て支援担当部長千明様、高崎市福祉部こども家庭課長清水様、吉岡理事、新井とで、実際に依頼があった場合の対応について意見交換を行った。
- ③2024年12月21日、群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター主催の「リハビリテーション専門職のための医療安全教育FD」に参加し挨拶を行うとともに、県士会として、当該センターの行うリハ職に対する医療安全教育に対し積極的に支援をすることとした。
- ④2025年度は、当会創立40周年記念式典の実施へ向けての具体的な準備を行う重要な年となるので、そこへ向けての実行委員会組織の設立等、年度前から積極的な準備を進めるようにして欲しい。

2. 関根副会長

リハビリテーションを考える議員連盟の総会に令和6年12月12日に参加した。資料を共有する。

3. 教育部

【担当：勝野・今村／報告者：教育部部長・今井卓也】

【報告事項】

ブロック長会議 メールで随時審議を実施。

12/5にリモート会議を実施。

- 1) 令和6年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修

①現職者共通研修

現職者共通研修 「職業倫理」

日時：2025/1/22 講師：長谷川事務局長

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修 「実践のための作業療法研究」

日時：2024/12/11 講師：近藤G長

上記内容で研修会を開催しました。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修 「作業療法の可能性」

日時：2025/1/8 講師：山口副会長

上記内容で研修会を開催しました。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修 「日本と世界の作業療法の動向」

日時：2025/2/26 講師：新井会長

上記内容で研修会の日程調整をしています。

現職者選択研修 「精神障害領域」

日時：2025/2/9 開催方法：オンライン研修

講師：米原OTR(上之原)、鈴木OTR(群馬医療)、滝沢OTR(郡大病院)、大嶋OTR(ふくる) 上記内容で研修会を開催予定。全国の都道府県士会のHPへ掲載依頼をした。

②基礎ポイント研修

基礎ポイント研修「意思伝達装置について」

日時：2024/12/14 13:00～

場所：美原記念病院 てんぼくホール(対面開催)

講師：一場弘行(美原記念病院)

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

2) 令和7年度 新人症例発表会

日時：令和7年7月20日

会場：群馬医療福祉大学(対面開催)

統括：須田ブロック長(館林厚生病院)、金高OTR(療育センターきぼう)

各ブロック担当：北中毛→前橋日赤病院(矢吹OTR)

西毛→群馬整肢療護園(吉田ブロック長)

東毛→館林厚生病院(須田ブロック長、糸井OTR)

上記内容で研修会を開催予定。

3) その他 なし

【審議事項】なし

4. 広報部 [担当：都丸 部長 土岐]

【報告事項】

- 1) 公益事業グループ(グループ長：中澤)

来年度に向けての広報活動について検討。ノベルティグッズの作製を実施予定。

- 2) ニュース編集グループ(グループ長：大脇)

①1月号印刷準備中。今号より表紙のレイアウトを変更した。4月号に向けた部会を実施。特集記事の依頼は1月号発行後を予定している。

②記事の掲載依頼等ありましたら下記アドレスにお願いしたい。

送付先：介護老人保健施設うららく 大脇ニュース編集 G長daxiezongya@gmail.com

- 3) 広報企画グループ(グループ長：金子)

公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。

【審議事項】なし

5. 第27回群馬県作業療法学会 [担当:木村]

【報告事項】

1) 学会概要について

日程 令和7年11月30日(日) 9:30~17:00

会場 前橋医療福祉専門学校

およびZoomでのハイブリット開催

役職者

学会長 小林芳行(前橋医療福祉専門学校)

実行委員長 徳田継祐(群馬大学医学部附属病院)

事務局長 木村昌博(前橋医療福祉専門学校)

会計 牛込祐樹(群馬医療福祉大学)

学会テーマ 「作業療法の未来に向けて ~作業療法の楽しさをつなぐ~」

特別講師 山本伸一先生

(一般社団法人 日本作業療法士協会 会長)

2) 群馬県地方自治体への後援依頼について

学会の内容や計画を立案次第、事務局と協議し、後援依頼を行っていく。

【審議事項】

1) 上記の日程及び内容で理事会の承認をいただきたい。

承認後、速やかに特別講師への公文書発送を予定。

審議結果:日程、会場、役職者、学会テーマ、特別講師について承認された。

2) 学会広報活動について

① 今学会専用のInstagramとFacebook、Xのアカウント作成の承認をいただきたい。

審議結果:InstagramとFacebookについては、すでに学会支援グループのアカウントがあるため、学会支援グループと協議していく。Xのアカウントは本学会専用でアカウントを作成し、本学会終了後はアカウントを削除することとする。

② PTOTSTネット内の企業会員登録の承認をいただきたい。(県士会名義として)

審議結果:PTOTSTネットについて詳細を調べた上で再度審議していく。

3) 県士会のZoomアカウントについて

Zoomアカウントを学会用に増設したい。

審議結果:Zoomアカウントを増設することで決定した。

6. 学術部 [担当:李・吉岡]

【報告事項】

1) 学術研究グループ(佐藤グループ長)

① 学術研究グループの勉強会を9名の参加者に対し、これまでに5回実施した。

② 2025年1月15日に学術研究グループ企画の勉強会を実施した。

③ 全国OT学会(高松)の演題登録に向けた支援を行う予定である。

2) 学会支援グループ(秋山グループ長)

① 12月初旬に群馬県作業療法学会の引継ぎ会を実施した。

② 次期学会の会期、会場、テーマ等について確認を

行った。

3) 機関誌編集グループ(柳井グループ長)

① 12月初旬に機関紙投稿論文の募集を開始、締め切りは2月末日とした。

② 機関紙投稿論文の提出。お問合せは1月初旬時点では認めていない。

③ 機関紙「ぐんま作業療法研究」の投稿規定/執筆要領の改訂原案を近藤学術部長と作成中である。

【審議事項】

1) 機関紙「ぐんま作業療法研究」投稿規定/執筆要領の改訂について

① 重要変更内容:投稿資格を群馬県作業療法士会員から日本作業療法士協会員へ拡大

② 期待効果:投稿数の増加

審議結果:投稿資格を群馬県作業療法士会員から日本作業療法士協会員へ拡大することで決定した。

2) 学会開催規程について

① 学術部は9月開催をベースに年間計画を立案・実施しているため、原則大幅な時期変更には対応が難しい旨を学会開催規程に追記したい。

審議結果:上記旨を追記することで決定した。

② 上記①の承認のあと、学会開催規程変更に関する手続き不備を指摘され、学術部と事務局との協議のうえ、今回審議を取り下げ、次回理事会に再度議案を提出することとなった(2025/02/06)。

7. 運転と作業療法特設委員会 [担当:李]

【報告事項】なし

【審議事項】なし

8. 福祉用具委員会 [担当:石森]

【報告事項】

1) 福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会会員登録状況

令和7年1月25日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は51件、相談件数は2件。生活行為工夫情報事業は1件であった。引き続き事業内容について周知していく。

2) 福祉用具関連の研修依頼への対応について

① 令和7年2月7日群馬県介護支援専門員協会と合同研修を開催していく。講師は美原記念病院 石森卓矢とする。

② 令和7年3月6日に西毛ブロックを対象に福祉用具についての研修会を開催予定。講師は美原記念病院石森卓矢を予定。

③ 令和6年12月14日美原記念病院てんぼくホールにおいて、基礎ポイント研修「作業療法における意思伝達装置導入支援の実践」を開催した。講師は美原記念病院石森卓矢、一場弘行、堀口美紀、長谷川立樹を予定。

3) 令和6年度生活行為工夫情報事業 第2回東部ブロック会議について

日本作業療法士協会生活環境支援室の生活行為工夫情報事業の会議が1月20日に開催され、石森卓矢、一場弘行が参加した。

【審議事項】なし

9. 養成校連絡協議会 [担当:高坂・小林・木村]

【報告事項】

- 1) 3月6日(木) 19:00～第3回養成校連絡協議会会議予定。
- 2) 学生に向けて臨床実習後アンケートを実施。

【審議事項】なし

10. 地域局 [担当:柴田・今村・小此木・山浦]

【報告事項】

- 1) 北中毛ブロック支部
 - ①第27回学会に関して、実行委員と連携し準備を進めた。
 - ②地域局のメーリングリストについて事務局と共有、修正をした。
- 2) 東毛ブロック支部
 - ①太田市介護認定審査会委員の継続を依頼し、下記の方で継続となった。
中野亜祐美OTR・池田史恵OTR・小林雅津良OTR
 - ②2月に主任者会議開催のための準備を行った。
- 3) 西毛ブロック支部
 - ①高崎市の介護認定審査会委員の継続を依頼し、下記の方で継続となった。
平石武士OTR・都丸直樹OTR・中澤公恵OTR・山浦卓哉OTR
 - ②3月6日(木)に作業療法士を対象として福祉用具に関する研修会を行う。講師は石森理事にお願いしている。
- 4) 全体
なし

【審議事項】なし

11. 福利厚生部 [担当:小此木・部長 設楽]

【報告事項】

- 1) 県学会振り替え講演
1/25(土) 振り替え講演にて、柳井明子先生「ライフイベントに応じた働き方ってなんだろう？」を開催した。
- 2) 表彰状印刷の業者について
現在、来年度に向けて、印刷業者の選定を行っている。今後、教育部と新人症例発表会優秀演題賞の候補者の人数について、相談していきたい。
- 3) 優秀学生賞
今年度から、パース大学作業療法学科の卒業式が執り行われる。そのため、群馬パース大学に対しても優秀学生賞の表彰を進めている。

【審議事項】なし

12. 訪問リハビリテーション学術大会in群馬

[担当:小此木]

【報告事項】

11月25日より一般演題募集開始。登録数が少なく1ヶ月延長となった。2月21日までとなるので会員への周知をお願いしたい。
企業展示やランチョンセミナーを募集している。集まりはあまり良くない。
養成校様でプログラム集やバナー広告などご検討頂きたい。
引き続き、企業様など知っている方がいたら連絡を頂戴したい。

【審議事項】なし

13. 地域作業療法推進部 [担当:高坂・吉岡]

【報告事項】

- 1) 地域包括ケア推進グループ(山口グループ長)
 - ①11月28日、12月19日に地域包括ケア推進グループ定例会議を開催した。
 - ②12月13日に座談会、「『地域』って何!? 悩んでいる人集まりませんか?」をハイブリット形式で開催した。作業療法士26名(現地7名、オンライン19名)が参加した。
 - ③令和6年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金を使用し「介護予防に資する指導者人材育成研修会」を開催予定である。
日時:令和7年3月15日(土)
テーマ:「生活行為向上マネジメント×地域連携～最短ルートで課題解決～」
講師:平成日高クリニック 小池岳大先生
会場:群馬医療福祉大学
 - ④令和7年3月9日(日)第3回地域支援事業会議に参加予定である。
- 2) 認知症支援推進グループ(笹谷グループ長)
 - ①11月24日、12月15日の「認知症の人と家族の会」のつどいに笹谷グループ長と野村が参加した。
 - ②11月26日 施設宛てにチラシ封入作業を実施し、443部を郵送した。第2回目研修会に関して他団体への広報を始めた。
 - ③12月8日「士会における認知症の取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」に笹谷グループ長、神宮、佐藤が参加した。
- 3) 精神科領域推進グループ(米原グループ長)
 - ①12月6日 第2回相談会・雑談会を開催し、作業療法士11名(対面6名、オンライン5名)が参加した。
 - ②12月3日 精神グループ主催研修会の話題提供者 松岡様と事前打ち合わせを実施した。
 - ③12月16日第4回グループ員会議を行い、情報共有や来年度の事業計画について話し合いを実施した。
 - ④SNSのフォロワー数も増加しており、閲覧数も増加している(Instagramフォロワー101 Xフォロワー15)。X投稿閲覧数は、最多で900を超えている

投稿もある。

- ⑤精神科病院所属の県士会員対象に入会によるメリット等についてアンケートを作成中である。事業運営に役立てていく。

4) 発達支援推進グループ(小田グループ長)

- ①1月8日 幹部会議を開催した。次年度の役割分担案、事業計画案、研修企画の方向性の検討を行った。「5歳児健診へのOT参画に向けての対応」や「学童保育への対応」について、今後対応を検討していく事を共有した。

- ②1月15日 第2回全体会議を開催した。部員12名が参加した。来年度の研修会テーマの選定、群馬県特別支援学校強化事業(外部専門家派遣事業)についての意見交換、2月12日研修会の役割等について検討した。

- ③関東圏小児OT交流会が開催される予定である。
日時:2月1日(土)1部15時~18時、2部18時30分開始

場所:東京駅近辺

内容:各士会の取り組み、現状、困り事・課題等について、各士会10-15分程報告する予定である。当士会から選任者として吉岡理事・小田(現地)、六本木氏・中嶋氏(zoom)が参加予定である。

④学童保育について

丸茂氏から学童保育の支援に高崎市から依頼があった場合の士会の対応について、12月12日に新井会長、高崎市の福祉部子育て支援担当部長千明氏、こども家庭課の課長清水氏、丸茂氏、吉岡氏で情報交換を行った。

依頼を受けるのは個人での対応になるが、発達グループとして研修会など資質向上に対するサポートを行う内容で確認を行った。次年度具体的に動く場合には、依頼を吉岡を窓口に進めていく予定である。

【審議事項】なし

14. 事務局 [担当:長谷川・石森]

【報告事項】

- 1) 認知症に係る県民向け講座の教材開発・作成事業について

群馬県から受託していた県民向け認知症普及啓発の教材開発事業について、山口事業局長より別紙報告書の通り、教材を作成・納品したことが報告された。最終的に完了すると県のホームページ等で公開される予定。本事業は県からの単年委託事業であり、実質的な運営は地域作業療法推進部が対応したが、会計含め事務局の事業として扱った。

- 2) 総会議案書の作成について

各部本年度事業報告、来年度事業計画について準備いただきました。存じます。

2024年度総会議案書のデータを各担当理事へお渡しします。

- ①データをお渡しする日:2025年1月下旬までに担

当理事宛にメールで通知します。

*もしデータが届かない部署の方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。

- ②原稿締め切り:2025.5.7(水)

- ③提出方法:事務局長谷川宛にメールにてファイル添付してご提出ください

- ④注意事項:

・提出方法に関するご注意

原稿の編集の関係で、事業報告と事業計画については別々のファイルでお願いします。

・原稿ファイル名:〇〇部2024年度事業報告

〇〇部2025年度事業計画

で統一いただくと、編集の際に大変助かります。

何卒よろしくお願い申し上げます。

- 3) 40周年記念式典開催に向けて

2026年度開催に向けて実行委員会を立ち上げて準備を開始します。

2025年2月に最初の打ち合わせを行う予定

【審議事項】

- 1) 2025年度総会について

2025年度総会では、中止となった第26回群馬県作業療法学会で特別講演予定であった平石武士氏の講演を開催したい。日程について令和7年6月22日(日)を候補日としてあげる。日程を審議したい。

審議結果:令和7年6月22日(日)平石武士氏の特別講演を含めて総会を開催することで決定した。

15. 財務部 [担当:高橋・小林]

【報告事項】

- 1) 会費未納者について

12月中に通知を行い、納付されない場合は退会処理とする。

(~2023年度未納、1月中。2024年度未納、3月中)

未納者人数は最終確認後に理事会内で報告する。

- 2) 協会退会者についても通知を行い、再入会が確認できない場合(2025.3)はGAOT退会処理とする。

- 3) マイナンバーの提出依頼について

【審議事項】なし

次回理事会予定 令和7年3月26日(水)19:00~

事務局の小窓

第4話

新年度が始まりました。

新しい生活が始まってウキウキしている方にも、毎日同じ事の繰り返しで、人生ループしてるのかしらと訝しんでいる方にちょっと気分を変えてもらうことを期待して、県士会の少し不思議な話を取り上げます。

まず、会員名簿の最後のページ「役員名簿」をご覧ください。



おかしくないですか？

局長は私、あと石森副事務局長、・・・以上。部員は2人だけ。事務局員さん合わせて3人。限界集落だってもう少しマシではなからうか。

ゆゆしき事態です。このような現状に対して、私も手をこまねいたわけではありません。むしろ出来ることはしていったと言っていい。まず、部員募集の案内を出しました。そこでは、「とにかく人が足りない。助けて欲しい」と窮状を訴えました。年齢不問、性別も問わない、経験も不問、仕事内容はとても簡単で、特殊な技能だっていらないし、とてもホワイトな部門だと説きました。

そして、「やる気もまあ、特に必要ない」とまで書きました・・・。

果たして、結果は...「0」。ここまで、人が寄りつかないとは。これはまるで、魔の三角地帯バミューダトライアングルです。きっと時空が歪んでしまっているのだと思います。

私の心はひどく傷つきました。以来、私は、部員募集を出す勇気を失いました。(でも、それでも、事務局には部員さんがが必要です。本当です)

一方、その対極にあるのが、地域作業療法推進部です。士会の中では2番目くらいに新しく創設されました。当初数名の小さいグループからスタートし、現在は総勢63名を擁し県士会最大規模にまで成長した部門です。

ここまでは、超常現象というほど不思議な事ではありません。おそらく、なにか怪しげな勧誘でもしたか、弱みでも握って揺さぶったか、泣きついたかしたのでしょう。きっとそうに決まっています。

気になります。あとで詳しくレクチャーを受けなくては。

しかし、そうやって集まった人たちが機能的に動けるかどうかという事は全く別次元です。通常、急速に拡大した組織はある一定の時点から、その規模の大きさは贅肉となり動きを愚鈍にして意思決定を遅らせ、衰退をたどりまします。これは生物でも一流企業の組織でも同じ事です。都合良くイノベーションが起きることはないし、急速な成長は



どこか不自然で歪みを生じます。ドラッガーを少しかじったところで立ち行かないのが組織運営というもの。

なのに、地域作業療法進部の実際の活動というと、

- 座談会「『地域』って何?!悩んでいる人集まりませんか?」を開催
- 「認知症の人と家族の会」のつどいに参加。
- 「士会における認知症の取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」に参加。
- 第2回相談会・雑談会を開催
- 幹部会議で次年度の役割分担案、事業計画案、研修企画の方向性を検討
- 全体会議で来年度の研修会テーマの選定、群馬県特別支援学校強化事業の意見交換
- 関東圏小児OT交流会開催予定
- SNSのフォロワー数も増加しており、閲覧数も増加...
-
-

書きつくせねえ…。なんだこれ。圧倒的じゃないですか。サンフレッチェ広島?!!

これほど短期の間に強いチームが出来上がるとか、意味不明というかも怖いレベル。そして、この地域作業療法推進部の拡大に大きく寄与し当会の副会長でもあるのが山口副会長です。ちょっと普通じゃないと思います。

日本全国、東奔西走、神出鬼没、縦横無尽、彼の振る舞いをどのような言葉で表すのが適切か迷います。とにかく、ありとあらゆるところに顔を出し、どこかで誰かとつながっていて、飲み会にも顔を出し、小冊子も作り、私が時々送る不可解なメールにも返信してくれるのです。それもほぼ一番という速さ。

これは、一般的に本屋に並んでいる「仕事ができる人の〇〇術」に書かれているような、安直な解説では説明できないのです。

これについては、少し仮説を立て、補助線引いて考察したいと思います。

〈仮説1〉 ヒトではない何か。

大変申し上げにくいことですが、彼は既にヒトではないのかもしれない。

超常現象の界限で「ヒトではない何か」というのは、宇宙人というのが定番。彼が高度な知的生命体であれば、超越したテクノロジーを利用し、全国に同時多発的に活動することだって可能。まあ、確かに、なぜ宇宙人がわざわざOTの仕事をするのか？という素朴な疑問はありますが、それに目をつむれば、説明に矛盾はなさそうです。やっぱ宇宙人かもしれないな。グレイもスーツ着ればあんな感じになるだろう。

ただ、もし、本当に宇宙人だった場合は、深刻です。私は国家の重大機密事項に抵触することになり、どこか西側某国のエージェントに記憶を操作されてしまいます²⁾。また軽はずみに足を突っ込んでモルダー捜査官のようにUFOに拉致られる³⁾のも嫌です。残念だけれど、これ以上の追跡は不可能と思われました。

仕方ないので、もう少し別の検討を加えてみました。

「もしかしたら彼は1人ではないのかもしれない」という世界線で考えてみます。

全国どこでも顔を出し、あちこちに出没することも、複数人いれば可能といえれば可能なのでは？

〈仮説2〉シュピーゲル説⁴⁾

水鏡の悪魔シュピーゲルが作りだす複製体は、オリジナルの能力、機能、特性、思考、記憶も共有し、そしてしゃべることはないらしい。

いいじゃない。いいじゃない。

すごく便利!

そのシュピーゲルは「零落の王墓」という迷宮の最深处にいるらしい。元気21もそれっぽい感じの怪しさがあるし、多分あってる。

時々、新幹線移動中に送られてくるメールも、Zoom越しの薄暗い静かなたたずまいも、同時多発的に出没する謎も全ては『複製体』という補助線を引くことですべては説明可能です。間違いない。

静かに黙って、仕事に打ち込んでいる山口副会長を見たら、そいつはきっと複製体だ。気をつけろ!

なんだこれ。

いずれにせよ、彼が超常現象じみていることに変わりはない。

私は、こししばらく議事録とか、メールのやりとりとか、地域作業療法推進部の活動の痕跡をたどる作業をしていました。いくつもの事業が並行していて、研修会の企画や運営、OT協会担当者との打ち合わせなど様々でした。どれもがOTの将来に向けた布石になっていることを、私は改めて認識しました。それと同時に、これほどの大きい規模での活動の裏にある当事者でなければわからないプレッシャーや葛藤もそこに現れているようにも思いました。

わかりやすい結果が約束されるわけでもない。

地道な取り組みで、気づかれることも少ない。

これは種をまくということに少し似ています。種を蒔いたからといって、必ずしも花が咲くとは限らないけれど、いく

つかの種は確かに根を下ろし、静かに成長し、いずれは花を咲かせ実をつけるように、地域作業療法推進部の活動が着実に積み上がった時、地域の在りように変化がもたらされるはずです。

私たちは普段、花を愛でる時、実を刈り取る時、そこに種を植えた人に思いいたることは少ないかもしれません。だから時々、こうしたコラムを通じて、静かに種をまき続ける人たちに少しでも思いを寄せていただけたらとてもうれしいです。遠い誰かが行っているのではなく、身近なOTがそこに携わっているということが伝わればいいと思います。

そしてたまには、理事会の議事録をご覧ください。無機質な文字列の中に、きっといくつかの種が見て取れるはずです。

はい？

議事録とか目を通すのが面倒だし、つまらない？

・・・やめて。それ以上言わないで。

石森さんが聞いたら、きっと泣く。

「ちょっと相談が…実は…議事録なんすけど…書けないかもです」とか言いだしたら、超絶面倒です。本人の前で、議事録つまんねえとか、絶対言うなよ。本当のことを言うのが正解とは限らないからね⁵⁾。

その代わり、「お疲れ様です。いい仕事してますね」と、そっと囁いてみてください。

もつともつと彼はいけると思います。あと倍くらいはいけると思います。

次回「デイサービスいこうな」をお届けします。

エッセイは残りあと3つほど予定しています。もうしばらくお付き合いください。

コラムの感想をお待ちしております。 ⇒



参考資料

- 1) サンフレッチェ情熱史 降格・経営危機を乗り越えた「逆境のヒストリー」,2013.
- 2) ジェysonボーン 第3作 ポーン・アルティメイタム,2007.
- 3) エックスファイル シーズン7 #22 レクイエム,2000.
- 4) 葬送のフリーレン#24 完璧な複製体,2024
- 5) ほんとうのことをいってもいいの?パトリシア・C. マキサック. 2002

施設紹介

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部 作業療法科

〔地域の特性〕

伊勢崎市は元々、織物などお蚕様の産業が盛んな地域であり、歴史と伝統を新たな産業に繋げて発展してきた地域です。伊勢崎市は人口約21万人、群馬県の中でも4番目に人口が多く、高齢化率は約25%と全国的に見るとやや若い人が多い地域です。しかし、75歳以上の人口いわゆる患者人数にかかる所に関しては、2040年まで増え続けると推察されます。そのため、当院は増え続ける患者に対してなくてはならない病院であり続けることが重要であると思っています。

〔施設概要〕

当院は脳神経疾患の専門病院であり、脳神経疾患の急性期から在宅まで一貫した医療介護の提供をミッションとしています。病棟は急性期病棟、障害者施設等一般病棟、回復期リハビリテーション(リハ)病棟、地域包括ケア病棟を有し、病床は189床あります。当院は専門特化およびケアミックスというスタイルによって、短い在院日数で効率的な医療提供を実践しています。

〔リハ部の紹介〕

現在、PT60人、OT48人、ST13人、合計121人のリハスタッフが在籍しています。リハ部の体制として、当院は目標に向けてリハ専門職がチームアプローチできるように、各病棟ごとに責任者と専門職を配置し、病棟単位での運営・管理体制としています。

〔作業療法科の特色〕

脳神経疾患を専門とする当院では、対象とする患者さんの多くが脳神経疾患の方々です。そのため、作業療法の対象となる患者さんが恒久的に行える作業を共に探し、その作業を獲得できるようにサポートしていくことを作業療法科のコンセプトにしています。特に回復期リハにおいては、ADLの獲得のみではなく、在宅を見据えた作業療法を提供することを重要視しています。具体的には、「外出着の更衣練習による引きこもり予防」、「車移動が必須な地域であることを考慮した自動車運転の評価・訓練」、「最新機器を利用した上肢機能訓練」、「再び仕事に就くことを目的とした就労支援」など対象とする患者さんにとって何が恒久的な作業なのかを共に考え、獲得に向けてアプローチしています。また、当院リハ部ではデータを蓄積したデータベースを運用しており、アウトカムを積極的に学会発表するとともに、臨床アルゴリズムなどを作成しアプローチ方法の標準化にも努めています。今後も地域の患者さんをサポートするため、臨床能力の向上とデータベースの蓄積を続けて作業療法の質向上を図っていきたいと思っています。



執筆者：公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部
作業療法科科長補佐 飯野雄太

投稿大募集!!



ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した…などなど、皆様からの投稿を
募集しております。

どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。
お待ちしております!!

ニュース原稿の送付先

daxiezongya@gmail.com

県土会ホームページアドレス

<http://www.gunma-ot.org/>



編集後記

記事の依頼にご協力して頂いた先生方につきましてはご多忙の所ありがとうございました。
今回のコラムでは私の母校の先生のことについての
話題だった為かクスツと笑ってしまいました。私も
仮説2の説が濃厚ではないかと思っています(笑)。

〇

群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 大脇 宗雅 編集委員 || 関 仁紀、下田 幸、辻 千鶴子、白倉 研吾 印刷 || 星野印刷株式会社